

# 日本のエンタテインメント・コンテンツの中国語圏での普及を目指した字幕デザインのための基礎調査

～アニメと宝塚歌劇の状況の比較を通じて～

白戈  
東京工科大学大学院  
バイオ・情報メディア研究科  
g311600905@edu.teu.ac.jp

伊藤彰教  
東京工科大学メディア学部  
akinori@edu.teu.ac.jp

伊藤謙一郎  
東京工科大学メディア学部  
itoken@stf.teu.ac.jp

キーワード: 字幕, アニメ, 宝塚歌劇

## 1 緒言

日本のエンタテインメント・コンテンツは中国語圏でも高い人気を誇る。サブカルコンテンツのみならず、音楽や舞台芸術を収録した映像や中継などにも広がりを見せている。この普及にあたり重要な役割を果たしている要素の一つとして字幕の存在が挙げられる。香港の実写映画では歴史的に吹き替えが重要な役割を担ってきたが、近年のインターネットカルチャーでは、日本の声優人気もあり字幕の存在が欠かせない。音楽ライブ映像やミュージカルなども、歌手であり演者であるアーティストの声を吹き替えるわけにはいかない。こうした状況から、日本語エンタテインメント・コンテンツに対するアジア諸国の字幕を、ビジュアル面・内容面双方からデザインする手法の洗練化が急務である。しかしこうした研究を進めるにあたり、日本・アジア双方の視点を含んだ十分な基礎調査や状況把握が進んでおらず、研究進捗の妨げになっていると考えられる。こうした状況を鑑み本研究では、主に中国語圏における日本のエンタテインメント・コンテンツの字幕に関する状況を調査し、デザインに向けた基礎資料とすることを目的とする。

## 2 アニメへの中国語字幕付与状況

### 2.1 主な動画サイトと「字幕組」について

日本におけるニコニコ動画のように、視聴者が映像上にコメントを入れることができるサイトがあり、日本同様「弹幕」と呼ばれている。字幕組の活動が活発化した当時では、AcFun 弹幕视频网, 哔哩哔哩が主要な動画サイトとして人気を博しており、字幕組の中心的な活動拠点となっていた。動画サイトとしての規模は优酷 (YOUKU)、土豆 (Tudou) が大きい、いずれも動画にかぶせるコメント機能は持ち合わせていなかった。2012年には両者が合併し优酷土豆となった。現在はこちらもコメント機能が存在する。こうした環境の上で、合法違法を問わずアップロードされている日本のアニメに、独自の中国語字幕を付与するボランティア集団を、中国では「字幕組」と呼ぶ。それぞれのサークルには、日本では以下のような特徴があるとされている<sup>1)</sup>。

表1. 日本における字幕組の特徴の認識

猪猪字幕組	翻訳時期は早い但し翻訳にミスが多い
極影字幕組	最大級とされる BTDL サイトを所有
澄空学園	ギャルゲー掲示板発祥でゲーム原作に強い
華盟字幕組	翻訳の質が高いが翻訳時期は遅い
HKG	センスのいい翻訳で人気が高い
軽之国度	ラブゲ掲示板発祥でラブゲ原作のアニメに強い
WOLF	腐向けアニメに評判のある字幕組
諸神字幕組	日本語/中国語両方字幕を提供
千夏字幕組	百合アニメが得意
LAC	銀魂に特化しており専門性が高く翻訳精度が高い

これに対し、中国国内の若者は以下のような事実を認識しており、評価を与えている。

表2. 現地における字幕組の特徴の認識

猪猪字幕組	2006年設立。当時はアニメ専門だったが現在は映画やドラマも手がける。作品中に広告が挿入されており、それが原因でシェア禁止となっている bbs も存在する。
極影字幕組	2014年にサイト運営が停止され、このグループは現在 weibo や総合アニメ bbs に活動拠点を移す。
澄空学園	協力して字幕付与作業にあたる
華盟字幕組	
HKG	繁体字のみ作成。手がける作品の種類が圧倒的に多く、一般作品のみならず、アダルトアニメの翻訳の評価も高い。
軽之国度	字幕エフェクトの評価が高い

### 2.2 アメリカ「Crunchyroll」との比較

違法な活動として始まった字幕組だが、こうした活動は中国特有の権利意識の低さとは言えない。日本人でも、若者が欧州の動画サイトの違法アップロードサイトでアニメを閲覧することは決して珍しいわけではない。さらに権利意識が極めて高いとされているアメリカでも、Crunchyroll は違法サイトとして始まった。字幕組との最大の違いは、企業化を実現し、VC から資金調達に成

功し、権利処理する正式な窓口を作った<sup>[2]</sup>ことである。字幕組はあくまでボランティア集団であり、アメリカとビジネス環境も大きく異なることから、字幕組が Crunchyroll のようになる可能性はないと考えられる。

## 2.3 「字幕組」に関する中国国内の研究と考察

字幕組の活動に関しては、中国国内でも研究や考察の対象となっている。その方向性は主に3点である。

1点目は異文化コミュニケーション研究の事例として字幕組とそれを楽しむ視聴者に焦点をあてた研究である。「異文化コミュニケーションにおける国内要素についての分析—中国字幕組が翻訳された作品を例に」<sup>[3]</sup>では、字幕組作品の視聴者を二層に分けて論じている。第一層は字幕組のメンバーである。彼らは視聴者でありながら、媒介と伝播者である。第二層は普通の視聴者で、字幕を通じて動画の内容を理解できる層であるとしている。2点目は翻訳技術の角度で論じられる研究である。「字幕組の現状及び翻訳策略に関する研究」<sup>[4]</sup>の中で、字幕翻訳は吹き替え翻訳と違って、声優の声を直接届けることができるだけでなく、日本のアニメ独特の内容を最大限伝えられると論じている。さらに字幕翻訳は注釈を加えることができるとした。これは1点目の異文化コミュニケーションとしての視点とも関連がある。ただし、視聴者は短時間で動画を見ながら字幕を読まなければならないので、字幕翻訳の時この問題を考えなければならないと指摘されている。3点目は権利関係に関する議論である。中国国内においても権利意識は徐々に芽生えてきているようであり、「字幕組著作権性質についての分析及び合理的に使用する制度の適用」<sup>[5]</sup>では、その違法性を認識しつつも、コンテンツの普及には大きな貢献をしたという一定の意義を積極的に認めようとしている。

## 3 舞台芸術映像への字幕付与状況

### 3.1 ミュージカルとしての宝塚公演

中国でも「ラブライブ！」などミュージカルものの日本のアニメが人気を博しているが、日本独特の舞台公演の形式・内容として宝塚の人气が徐々に盛り上がりを見せている。1998年1月、宙組ブレお披露目として、香港カルチュラルセンターで「夢幻宝塚頌」「This is TAKARAZUKA！」が上演されてから今まで、宝塚歌劇団は中国（香港、澳門、台湾含む）で合計5回公演が行われた。さらに2014年以降、映画館におけるライブビューイングが香港と台湾にて集中的に開催されており、その回数は計11回にのぼる。

### 3.2 宝塚公演映像における字幕付与状況

2015年7月、台湾で「ベルサイユのばら-フェルゼンとマリー-アントワネット編-」「宝塚幻想曲(タカラヅカファンタジア)」が上演された。公演期間中、中国語字幕付き「2014年花組 中日劇場公演 DVD『ベルサイユのばら』-フェルゼンとマリー-アントワネット編-【台湾版】」が販売されていた。これは宝塚歌劇公式的に販売した唯一の中国語字幕付きのDVDである。舞台公演時の記録は未調査のため、電光掲示板などで字幕が付与されていたかは不明であるが、ライブビューイングの記録を調査する限りでは、映像中への字幕付与は存在しなかった。このため、舞台公演、ライブビューイング共に、ある程度日本語の理解が可能な観衆が主な対象となっていたと考えられる。

これとは別に、動画サイト上での状況について2017年1月13日に調査を実施した。日本関連の舞台劇術に関して「宝塚歌劇」「劇団四季」「東宝演劇」で検索した結果は下記のようにっており、宝塚歌劇の認知度が圧倒的に高いことが伺える。

表3. 2017年1月時点での中国の主要動画サイトでの検索結果

	宝塚歌劇	劇団四季	東宝演劇
BILIBILI	863	12	4
YOUKU	224	23	0
TENCENT	29	0	0

BILIBILI、YOUKU いずれも、一部字幕付きの映像がアップロードされているものの、大多数の映像には字幕は付与されていない。ただし上記動画サイトはいずれもコメント機能があるため、日本語に詳しい視聴者が翻訳や解説などをコメントとして多数付与しており、他の動画との差となっている。この事例をとってみても、宝塚歌劇という特殊な様式・内容・文化背景を持ったコンテンツ理解・普及に適切な字幕が欠かせないことの証左となっている。

## 4 課題と展望

中国語圏における日本アニメの爆発的普及と人気の定着には、非合法活動ながら字幕組の存在が大きく、文化背景状況理解に根ざした精度の高い字幕の存在が不可欠であることを、宝塚およびその他日本の舞台芸術の字幕付与状況と比較して検証を行った。中国に限らずこうした海賊版の問題は、倫理的には看過できないが、ビジネスサイドの供給不足問題と捉えることもでき、それを成功させたのがCrunchyrollなのは議論するまでもないだろう。さらにインターネット世代の字幕は、翻訳研究の範疇のみならず、PCブラウザやスマートフォンなど多様な大きさ・解像度を持つ画面上に、簡体字・繁体字で適切なフォントにより表示をしたい。アニメはもとより、宝塚歌劇も独特の世界観やコンテンツ構造・視覚聴覚演出技法を持つコンテンツであり、それに寄り添ったフォントデザインやエフェクトなども考慮に入れる必要がある。今後はこうしたコンテンツデザインの他、その受容に関しても総合的・多角的日中比較を進めると共に、意味内容を適切に反映した翻訳と字幕デザイン研究を推進したい。

## 参考文献

- [1] なぜいまの中国でも字幕組を必要とするか(上), <http://hathiko8.blogspot.jp/2016/10/blog-post.html> (最終確認日:2017年1月31日)
- [2] Crunchyroll.Com 約4億円の資金調達, <http://venturecapital.typepad.jp/blog/2008/03/crunchyrollcom4.html> (最終確認日:2017年1月31日)
- [3] 雷蔚真, 邵立, 跨国传播中的国内因素分析—以中国网络字幕组翻译作品为例, 数字未来与媒体社会, pp.112-133, 2011.
- [4] 邓洁, 翻译字幕组生存状况及其翻译策略研究, 语文学刊·外语教育教学, 2013年第12期, pp.39-42, 2013.
- [5] 龚琳, 影视字幕组著作权性质分析及合理使用制度的适用, 三明学院学报, 第28卷第4期, pp.50-56, 2011.